明治二十七年二月

〔明治廿五年四月七日內務省許可〕

大日本蠶絲會報

第貳拾號

大日本蠶絲會

大日本蠶絲會報第貳拾號目次

●論說

◎此際に於ける蠶種の保護に就て　大日本蠶絲會贊成會員　練木喜三

◎養蠶術（接第十七號）　大日本蠶絲會贊成會員　松永伍作

●寄書

◎生絲の商業に就て　横濱　大日本蠶絲會贊成會員　橋本重兵衛

◎我關西各製絲家に謀る　滋賀縣產製絲會　大日本蠶絲會員　加藤傳吉郎

●統計

◎横濱市場に於ける五箇年間の生絲統計◎世界諸國生絲產出高◎廿六年十二月中生絲屑物出數量元價及收稅統計◎廿六年十二月中朝鮮輸出數量及元價統計◎一月中横濱輸出生絲手合高同最高價格及外國為替相場表

●問答

◎蠶室內にて洋燈を用ふるの利害其他の件質問並に答◎煮繭法に付き質問並に答◎四化蠶及節溫器に關する質問並に答◎蠶卵龍青法他に關する質問並に答◎桑樹栽培法に付き質問並に答◎製種法に付き質問並に答◎蛾の檢査上に就て質問並に答

●外報

◎佛國養蠶景況◎佛國里昂絹絲商況◎伊國養蠶絲況◎英國倫敦絲況◎米國紐青絲況

●雜報

◎大垣式御備付の絹絲製島蠶◎廿六年生絲貿易の概況（承前）◎蠶業傳習生の授業問塲給料◎四々原蠶業試驗場◎我生絲に一大影響を與ふる◎蠶絲業改良會◎力成社の蠶絲◎廿六年貿易の概況◎紐育の生絲◎紐育の貿易◎沖繩縣下の蠶況◎夏蠶の成績◎大阪兵庫の蠶況◎大草種の來歷◎生絲の紐育の關する會社の狀況◎米國人の評◎蠶絲會員の英文日錄付き◎蠶絲會員の加入◎絲綿裝草下賜

◎大日本蠶絲會職員

○技藝委員

今西直次郎　農學士
伊知地鉀之助
伊藤小左衛門
橋本重兵衛
八田逸也
星野長太郎
堀正太郎
農學士
農學士
農學士
農學士
農學士
農學士
農學士
農藝化學士
農藝化學士
農藝化學士
農藝化學士
農學士
農學士
農學士
農學士
農學士
農學士
農學士
農學士
理學士
理學士
理

は不時の暖氣に感ぜしめざる樣仕舞おく間を名づけたるにて此間即ち今の中は如何樣にも心して成るべく貯藏場の溫度の平等を計りかりそめにも不時の暖氣に遭はしめざる樣注意に注意を加ふるを旨とす又催青期とは蠶種をば貯藏場より取り出さんとする際より蟻の出るまでの間を名づけたるにて此間の扱ひかたは貯藏期とは全く反對にて成るべく次第に溫度を高めかりそめにも不時の寒氣に遭はしめざる樣注意に注意を加へ遲からず早からず桑の葉の開きかたのほど好き頃に至りて蟻の一齊に出る樣仕向くるを法とするなり

伊太利にては一時高き山の上に貯へて好結果を得しものもありしかど管理の困難なるより終に長く行はれずその以來は特に貯藏庫とて二重の土藏を建て又は貯藏器とて二重の箱を設け氷など用ひて一月より三月の半ば迄三十六度半の溫度を以て貯へ後半ヶ月の間に次第に溫度を高めて外氣と同溫に至るを俟ちて取り出して夫れ〳〵花主に配るとなん本邦とても亦此事なきにあらず唯製種家のなすと養蠶家同志の行ふとの差あるのみ彼の埼玉縣兒玉郡本庄町の蠶種貯藏庫又群馬縣北甘樂郡富岡町の蠶種貯藏庫などを始め先年來續々諸方に此類の建設あり御國の爲め又此業の爲め誠に賀すべき事なり故貯藏庫にまれ又貯藏器にまれ其設けある最寄の人々にして而も前述の理を覺れる人々は幸にも是等の便を得て此間の無事を得べしよし又左なきも熟練の人々は早くも此旨此法を心得そが取扱を巧みにして常に此間の無事を得て收繭の豐かなるを得べきも不幸にして此等の便もなく又此理に聞く而も此事に不

慣の人々は此保護も亦養蠶中の一大要件たるを知らず養蠶とし云へば讀で字の如く唯桑かけて養ふ事とのみ思ひ蟻の出て後こそいとおしみもし又大切にもすれ蠶種は買ふたりけり復た顧みもせず秋去り冬來り春に向ふも尙同じ處にのみ吊しをき貯藏はさて置き袋さへ被ぶさず甚だしきは爐邊に下げて不時の發生に驚き或はたま〳〵貯藏するも其旨を誤り簞笥などに秘めおき又は種箱などに入れたりけり蟻の出たるをも知らで打過ぎ結果の悪しきを見てかこつ事もあるべし

蠶種の保護は後れたりとて其儘過すべきにあらず今若しさる人々のあらんには早く淸らかなる箱を撰びて之に納め同じ家の內にても最も寒き處に移すべし決して其儘になしおくべからず箱の大いさは橫縱ともに種紙より大なるがよし深さは普通の種紙一枚に付き一寸以上なるべし香氣あるは悪し若しも適當の場處なくば更に又一層大なる箱を撰びて二重に其中に入れ成るたけ寒き處におくべし斯くて桑の芽の燕口ほどにもなりなば先づ其蓋を開き翌日そつと取出して少し暖かなる處に移し夫れより次第に暖氣に遭はしむることと恰も冬の春に移り春の夏に移るが如くし折〳〵上下に掛換ふべし發生をして早からしむるも遲からしむるも此際の取扱次第にて如何樣にもなるべし若又其蓋をとりたる際既に催青の模樣あらば其儘其處に吊し置きて蟻の出るを俟つべし折〳〵上下に掛換ふる事前に同じ青みて後俄に寒き處に移すは悪しゝ以上は此際此業に慣れぬ人々の注意の爲めにとてものせるのみされば發生間際に於ける催青の事までは委しくは云はず扨は又此次に論つらはん人のあるべければなり兎に角此

際の保護は家の主たちんものゝ能く〳〵心すべき事になんかし

◎養蠶術（接第十七號）

大日本蠶絲會
賛成會員　松永伍作

蠶室蠶具の事

是より蠶室蠶具等に就き陳述すべし蠶室の構造は其土地の地形若くは氣候等により酌量せざるべからず地勢は概して乾燥なるを貴ぶ濕潤なれば飼育隨て困難なり故に蠶室は可成的高燥なる地を卜して構造すべし而して平家造りを良とす乍併其地の廣狹により勢ひ二階造りとなさゝるべからざる場合なしとせず二階造りは其動作上不便勝なるものなり蓋し桑の運搬蠶沙の持御等甚だしき手數を要す然れば萬止を得ざる時を除きては平家造りとなすべし但以上は所謂高燥地に就ての談なれども若し其地濕潤なれば却て二階造りを宜しとす蓋し濕氣は上際に至る程益す減少するを以てなり養蠶は元是乾燥を貴ぶされば些少の手數を要するにもせよ飼育の易からんことを企てざるべからず又蠶室の方向は東南を以て第一とす是れ朝日の清氣温暖を感受するを以てなり而して午前の暖氣は貴重すべしと雖も午後の西陽は尤も嫌忌すべきものなり但東南に面せざれば飼育し能はずと云ふに非ず只其飼育の容易なればなり

養蠶は農家の餘業なり然るに莫大の資金を投じて大廈高樓を起し人目を愕かしむるの蠶室を構造するものあり是等は余輩の賛成するを得ざる所なり蓋し養蠶は素より利益を得るが目的なり斯る高樓を興し大廈を營み巨資を投ずると雖も之を使用するは年内僅々二ヶ月前後のみ其他は實に無用の長物たるに過ぎず如何ぞ收支償ふを得んや尤も彼の蠶種家にありては隨分此等完全の蠶室を建設するも可なりと雖も普通養蠶家に在ては不經濟の最たるものなり蓋し養蠶は高大なる室に非ざれば決して收獲薄しと云ふの理あるとなし弊室粗屋なるも飼育其宜きを得れば隨分相應の收入あり乃ち其一例を擧ぐれば當西ヶ原試驗場の蠶園蠶室の如き是なり今試に四ヶ年間の結果を述べんに初年は二間四方の室内に於て蟻量四匁を飼ひ成繭一石一斗を得二年目は仝廣さの室内にて客ヶ仝樣の結果を得三年目は室内を二間半に六間とし西方の一間を板間とし桑葉調理場兼住居所に充て其餘を二分し二間半の室を二室設け蟻量十二匁掃立收繭三石を得たり四ヶ年目は仝室内に於て蟻量十一匁を掃立仝く三石を收繭せり以上の如く蠶園なる弊粗なる室内に於て尚ほ十分の結果を見るを得此蠶園蠶室を以て普通の養蠶室に對照せば其飼育の難易果して如何問はずして蠶室の困難なるを知るべし今當場傳習室と蠶園室と其飼育日數を調査すれば同量の炭火を用ふる場合には蠶園の方常に三四日間位の差異あるが如し即ち傳習室は大抵三十五六日を要し蠶園は四十日位を要す斯く其差異を生ずるは蠶園は温度を保持すること難く時に或は五十五六度に下降することあり又高きときは八十度にも及ぶことあるなり但六十度以下に降ることは飼育中凡そ三日間位に過ぎず此に由て之を觀るときは蠶室は別段大廈を營むに及ばず各自在來

の住宅を以て之に充てゝ可なり而して在來の住宅を以てするに方り窓牖を設け室内を改築し烟筒を新設する等の事も萬止むを得ざる場合を除きては可成的間に合せ主義を採り實益を計らざるべからず蠶室を改造し桑葉を撰びて後其繭を收むるも經濟上の過不及如何を顧みざるものは是愚なるのみ蠶業は實に經濟の一點に支配せらるゝことを忘るべからず

蠶具と稱するものは蠶架、蠶箔、笊、桑切板、庖丁、鎌、羽帚、蠶網、秤、寒暖計、塗盆、桑篩、箕、簞、時計、桑貯藏籠、燭臺、雜巾、雜巾桶、等を云ふ此内蠶箔には土地により種々あり利害孰れも相伴ふ此等は地方の習慣上其土地に備はるものは其土地人民の使用に巧みなるを以て猥りに變改せざるを宜しとす只蠶兒の衛生上害ありと認むるものゝみ改正するを要す其他の器具に至ては今茲に詳細なる說明を與ふるの必要を見ず

飼育上の注意

飼育法に種々の流義あり清涼育、温暖育、折衷育其他何流々々と稱するあり温度を高め發育を速進せしむるは温暖育なり温度を低くし徐々に發育せしむるは清涼育なり素より蠶兒は温度の高低に隨伴して發育に著るく遲速あるものにして發生より老熟し成繭に及ぶ迄平常八十度以上の温度にて飼育せば即ち平均八十三四度なれば二十日間にて老熟す並し八十三四度平均なれば時には九十度以上に昇ることあり或は八十度以下に降ることもあるべし此温度を平等に保續せしむるは至極困難とする所にして

到底晝夜平均に保つこと能はず何程苦心するも十度乃至十二三度の差異は免る能はざるなり又七十度前後の温度を以て飼育せば三十五六日にて老熟す即ち六十六七度より七十二三度間を以て飼育するなり六十四五度の平均温度なれば四十五六日乃至五十日近くの日時を要す六十五六度の平均温度にて飼育するには勢ひ六十度以下の場合あるべし以上種々の温度を以て飼育するを得ると雖も然れども温度は那邊迄を以て蠶兒の發育に適當するかと云ふに先づ七十度前後を以て春蠶發育に適するに相違なきなり何となれば蠶兒の發生し其發育する季節を想像せば常に七十度位なるを容易に識別するを得べし蠶兒の發生は地方により大に遲速あり是即ち其氣候の然らしむるものなり日本に於ても九州四國の如き暖地に在ては四月上旬より發生する所あり又北海道にては六月初旬より發生を始む本州にても信州佐久郡若くは青森秋田邊にては五月下旬に發生する所あり斯く各地に遲速あるは即ち其土地の氣候の然らしむるに因る乍併其土地の桑樹にして芽を出し葉を展ぶるに及て發生するといふ一點に於ては其何れの地方を問はず異別あることなし而して今此季節を考ふるに寒暖順を得温和の時ならざるはなし斯く氣候適順の期に於て温度を檢するに常に七十度位なりされば蠶兒は此季節卵を出てゝ發育する性質を有するものなれば此温度は以て彼の發育に適するものなるや明なり故に若し養蠶時節にして天炎なく必ずしも適當の氣候のみならしめば養蠶は只桑を與へさへすれば能く成育するの道理なり乍併此季節は年内尤も不順の時なり故に彼の發育を妨ぐることあるに於ては人爲の及ぶ限りは其障害を豫防

し發育をして全からしむるより外に飼育すると云ふ適當の方法なきなり例之ば寒冷なれば蠶兒成長せず故に人爲を以て溫度を進めざれば蠶の發育に妨害を來すや必せり發育に妨げあれば蠶兒隨て虛弱となる故に火力を以て暖氣を與へ以て其害を防ぐ實に火力は其必要に迫りて生ぜるものなり然るを此火力を用ふることを只單純に寒氣の時のみに限りて己れの平生目的とする所の溫度迄に達せしめんとする一點にのみ拘泥するは却て過失を招くの原因となるものなり宜く愼むべし

溫暖育は何時頃よりして行はれしかと云ふに此事に就ては種々の說あり余の考ふる所にては千年以前の往古より既に行はれつゝありしかと思はる只維新前後此溫暖育法の行はれし根原は概ね福島縣伊達郡邊よりしたるなり此地方に於て此育法の行はれしことに就ても種々の說あれども余の考へには彼の地は養蠶盛なる地なり殊に蠶種製造家尤も多し而して此等の種師は古來より在りし由なり彼の外國へ盛に蠶種の賣れ行きし時此伊達郡邊に於ても大に輸出を企て巨利を得しものもありしと云へり其頃彼の地の養蠶家は擧つて蠶種家たらんとするの傾向ありき今夫れ蠶種を製造するに當り其尤も恐るべきものは蛆害なり此は養蠶の時期後るゝに隨ひ益す多く早ければ隨て害も少し蓋し此原因が火力を借りて發育を强いて速ならしむるに至りたるものゝ如し蠶兒掃立の時と桑芽開綻期の釣合は伊達郡邊は蠶兒掃立方最も早き處なり斯く早く掃立以て蛆害を寡からしむるに汲々たりと雖も只其早掃するのみにては未だ以て意に滿たざる所あるより火力を用ひて發育を扶けしむるに至れるなり彼の溫暖育法の大

に行はるゝに至れる根原は蓋し茲に在るものゝ如し此伊達地方は有名なる養蠶地の名ある丈ありて日本國中飼育に最も鄭重を盡くせり其有名養蠶地の盛名を發表するに至れるものは實に鄭重なる取扱を以て良繭を得るの點よりして生れしものなり勿論掃下を早くし軟桑を以て飼ひ蠶兒を飽迄肥滿せしめば良繭は期して得らるゝなるべし同地に於て彼の蠶種の輸出盛なる當時は人により飼育日數二十五六日位を以て結了せしものあり余嘗て明治九年頃伊達郡の人を傭ふて養蠶をなせしことあり其頃其者の飼育中溫度の目的は蠶兒に給桑し發育する間は七十五度より溫度を下降せしめず漸々成長し催眠するに至れば八十度に昇進せしめたり即ち食盛より桑止迄此溫度を保續せしめたるなり桑止より即ち就眠より七十度に降らしむ此順序を以て二十七八日間にて成繭の運びに至れり此育法により飼育せば果して良繭を得らるべし是蓋し軟桑を多く用ふるを以てなり乍併此方法は至極困難なり獨り育法の困難なるのみならず又甚だ不經濟なりされば溫暖育の根原と稱せらるゝ伊達郡に於ても不經濟なりとの見解亦同樣に出でたるなるにや近時は從來の育法を追次改めて矢張三十四五日を以て上簇せしむるもの多しと云ふ根原既に然り其養蠶上完全なる育法たらざりしや亦疑ふべからず

清涼育は群馬縣佐位郡邊に專ら行はれたる育法なり此地方にては火力は蠶兒に害ありとなし蠶室は其周圍を開放して空氣の流通を自在にし寒冷も之を厭はず火力を忌むこと蛇蝎の如し故を以て飼育日數甚だ長く五十日以上を要するに至る思ふに是亦良法と云ふべからず蠶兒既に卵より出でゝ發育すべき

の期に臨まば間斷なく適當に發育を遂げしむることを勉めざるべからず火力を用ひずして溫度五十度以下に下降すれば蠶兒は決して成長せず成育せざるも又三四日間食せざるも生活はなすなり生活はなせども其衰弱を來すや疑を容れず蓋し寒害は顯著に知られ得るものに非ず何となれば蠶兒既に成育を休止せざれば假令害を被ふるも其害たる實に遲々たるものなり然れば只觀察する位にては到底健否の斷定を下す能はず蓋し五十度以下にては蠶兒は決して桑を食はすして生活しつゝある以上は其體內の物質は必ず消耗す躰內の物質消耗すれば衰瘠するは勿論なり蠶兒は溫度に支配せらる故に其高低は以て彼の生命を延縮す溫高ければ命短く溫低ければ命長し然れば生活ある以上は害を被ふること必せりと謂ふを得べし理固より然り實際上又其然るを證するに足る何となれば彼の根原たる佐位郡に於けるも近時漸く迷夢醒めて火力の必要を感じ之に則るもの甚だ多し

以上說示する如く溫暖育法及淸凉育法の蠶蟲成育に不適當なるは各其育法の行はれたる根原の養蠶家が自悟して育法を改むるに至れるを以て旣に明瞭なり乍併蠶兒は適順の溫度なれば無難に發育し寒冷は火力を加へて之を防ぐべしと云ふて猥りに之を用ふるは宜しからず又蠶室は目張するもの多しと雖も密閉に失するは不眞なり當試驗場は目張せすと雖も發育の宜きを見る養蠶期中の溫度天然にては寒きときは四十二三度位に降ること毎年二三回あり火力を用ふるは概ね左表に準據すべし

天然溫度　四月　五月　六月　七月　八月　九月

火力溫度　六月　七月　八月　九月　十月　十一月

右の割合を以て補ふを可とす然すれば火力の强きが爲めに失敗を招くことなし七十度よりは天然の氣候に任す暑氣は八十五度九十度の時なしとせず其熱暑の害を避くる手段は實に困難なり四眠後には年々一二回は必ず斯る場合あるものなり暑氣は寒冷に導くこと困難なり溫度上進の爲めに被害あるの理は蠶兒は一躰生活ある機械なり而して其運轉は溫度に從て遲速を生ずるは勿論にして其機械の運轉は彼に適度なかるべからず此度合は七十度位なるべし氣候の不順の爲めに八十度乃至九十度に至らば彼に適したる度合より殆ど一倍近き劇しき運轉をなさゝるべからず此激烈なる運轉に堪へ得ざるものは即ち病を發するに至る暑氣の爲めに傷害を免るゝ能はざるは暑氣を減退せしむるの工夫に困難なればなり故に此場合に臨み行ひ得べき一の手段は唯只此劇しき運轉にも能く堪へ得らるゝ樣最初より强壯に育て置くこと即ち堅牢なる機關たらしむるより他なきなり蓋し暑氣に侵さるゝは蠶兒其者の虛弱なる性質を持てるを以てなり抑も蠶兒を强壯に發育なさしめんには遡て健卵を撰ばざるべからず而して健卵を得んには健蛾を撰ばざるべからず貯藏中傷害なからしめざるべからず稚蠶の時期無難に强壯に發育せしめざるべからず之を忘ることなく其完全なるを得るに於ては其蠶兒壯健能く劇しき運轉に打勝ち不時の暑氣に侵さるゝことなかるべし母蛾虛弱なれば即ち卵虛弱なり卵虛弱なるも亦能く發生し時として氣候適順なる年柄に於ては能く成育することあり然れども元來虛弱の性を享くるものなれば

氣候の激變に堪ふるの勢なく遂には發病するに至る貯藏中冬季の暖氣に逢はしむるは不可なり勿論此等も亦能く發生すと雖も已に虛弱性を與へたるものなれば暑熱の害に抵抗する能はず

因に曰く乾燥十分にして暑氣甚だしきときは水を撒布し或は枝葉を室内に吊して可なり一二度は降るべし屋根に水を撒き或は濡莚等を布くは反て宜しからず南より熱氣來れば南を杜ぎて北を開き空氣を遠廻しに導けば幾分か冷却す又絶えず新鮮の桑葉を少量宛度々給與し桑葉の盡きざる樣になし青葉中に蠶兒を在らしめ除沙を頻繁して蠶產の不潔ならざる樣勉むれば多少の凌ぎとなるべし

當試驗場に於ては年々三齡位迄は絶えず幾分の火力を用ふるなり其火を容るゝは極寒の時に於て當場備付の火器(凡壹貫五六百匁入)に一杯用ふれば可なり室内の温度を七八度乃至十度位昇さんとせば此火器に半分乃至六七分容れて可なり凡そ夜分十一時に給桑し而して其夜の氣候を能く想像し若し冷却の甚だしきを豫知したるときは十分灰を掻分けて一杯用ふべし又寒氣强からざるを察せば少量にて宜し火力は蠶兒の桑を漸々食ひ減すに伴ふて温度の下降するを貴ぶ故に其心得にて用ふること肝要なり大抵翌朝四時頃迄に十度位は降るものなり朝六十度或は五十八度に降るも慌てゝ强火を用ひ急激に温度を昇すは不可なり若し斯る場合あれば先づ二三度昇せ而して後給桑し夫より漸次温度を加ふるを宜しとす決して給桑前に温度を急昇せしむべからず

寄書

横濱　大日本蠶絲會贊成委員　橋本重兵衛

◎生絲の商業に就て

明治二十六年一月以降十月迄の里昂市場に於ける日本器械一番絲及佛伊二國の一番絲の相場を對照するに左の如し

明治二十六年	佛國一番絲	伊國一番絲	日本器械一番絲	日本絲の伊國絲に比して安直なる事
一月	六二法	六〇法	五九法	一法
二月	七〇	七〇	六九	一
三月	七五	七九	七九	〇
四月	七九	七四	七四	〇
五月	八二	七三	七一	二
六月	七二	七〇	七〇	〇
七月	六九	六三	五四	八
八月	六四	六一	五三	八
九月	六〇	五六	五一	五

十月	六一	五五	四九	五	

我蠶絲は伊國の蠶絲に比し千八百八十八年以前は四五法方安直なりしことありたれども獨來は僅に一二法の差なるを先づ尋常の事と爲したれば右七月以降の如きは我蠶絲の下落近頃非常なりと謂はざる可からず蓋し我國は需用地と遠隔し居る等の事情よりして諸國一般昂貴の見込あるときは我絲價は直に昂貴し伊國絲と同格なることあり罕には其上に出づることもあり之に反し諸國一般下落の見込あるときは內國の絲持主は大方持久の力なく往々投賣して勢ひ世界の市場上に於ける我蠶絲の景氣を落すものにして七月中俄然此の如き變動を致したるものは全く是が爲めなりとす今我荷主等が往々斯かる失敗を取る所以の原因を思念するに我荷主のみならず年來横濱に在つて賣込業に從事する專門の商業家に至る迄一般に未だ世界の市場の事情に暗く機を見て動くの能力不足なるに職由せずんばあらず故に我蠶絲賣捌上の點に於ては新に通信機關の設立を企圖するより急務なることなかるべし二十六年度の如きは通常機關の備へなきが爲めに三百萬圓以上の損耗ありしことを疑はず

蓋し通信機關を設くるの意は世界市場の日々の出來事をありの儘に知らするに在り其事情に應じて經營云爲するは商業家其人に存す自己の意見を披露して商業家の指南を爲すが如きは通信機關の本職にあらず且つ此の如きは商業家の爲め却て危險なるものなり而して今の狀況にあつては總ての點よりして現在各國に派遣しある館事を以て其機關に充つるの外なきが如し

次に右一月以降十月に至る迄の各月の我蠶絲相場を我國貨に換算して之を横濱市場に於ける相場と對照し以て輸出者の利益如何を考ふるに左の如し

但横濱より里昂までの諸入費を里昂の相場の百分の十二と見積りて左の相場は之を扣除せるものなり

明治二十六年	日本蠶絲一番絲	佛國爲替相場の平均	日本貨幣に換算すれば	當日の横濱相場	利益
一月	五九	三、四四	九〇五、五〇	八八〇	二五、五〇
二月	六九	三、四三	一、〇六二、一八	九二〇	一四二、一八
三月	七九	三、四二	一、二一九、六八	九八〇	二三九、六八
四月	七四	三、四〇	一、一四九、二〇	一、〇六〇	八九、二〇
五月	七一	三、四一	一、〇九八、八四	一、〇四〇	五八、八四
六月	七〇	三、三八	一、〇九三、四九	九五〇	一五三、四九
七月	五四	三、一九	八九三、七五	八九〇	三、七五
八月	五三	三、二二	八六九、〇〇	八五〇	一九、〇〇
九月	五一	三、二〇	八四一、五〇	八二〇	二一、五〇
十月	四九	三、〇六	八四五、四九	七六〇	八五、四九

此に由つて之を觀れば三月の利益の如きは之を異例と爲しても輸出者の利得隨分多きを見るべし又横濱に於ける絲價の下落は過度の堆積に起因することあるも亦人の知了する所なるが其原因を考ふれば他なし地方の荷主が融通を欲するに方りて地方に於ては横濱程の金高を取付け難く强て借入を爲せば通貨金高少なくして利子の割合頗る高きものとす又金主は横濱へ積出さんとする所の荷物に對し

ては貸出を肯ずれども地方に留置かんとする分に對しては貸出を拒絶するを以て荷主の心算好時機を以て積出さんと欲し暫く荷物を留置かんとするも手都合の之を許さゞる事比々皆是なりと謂ふべし抑も蠶絲の相場たる動搖不定にして六ヶ月間も居ずわり居ることは未だ曾て之あらず大抵二三ヶ月間に一回の變動を爲すを常とし居れるものにてありながら荷主の不幸なる之を利する便宜に乏しきを如何にせん蓋し絲價の下落たる獨り荷主の損耗のみならず其影響賣込取次人なる賣込商及通常荷主の金談相手なる銀行會社にも直ちに施及するものなれば此等の人々の協力して絲荷の堆積を防ぐの方法を講ぜんことを望まざるべからず

◎我關西各製絲家に謀る

滋賀縣　彦根　大日本蠶絲會員　加藤傳吉郎

我關西製絲業は月に日に駸々乎として進歩し其發達の盛なるは實に國家の爲めに賀すべきなり然りと雖も熟々其内情を視るに根據甚だ固からざるを憂へざるを得ず況んや去る明治廿五年度の如き不測の生絲盛況に基因せるもの其半を過ぐるに於てをや是等の輩の如きは所謂利慾的に其本心を驅逐せられたるものにして敢て顧慮するに遑まなく東西に狂奔して輕躁にも地を求め工を起し妄りに原料を高價に購ひ漸くにして工成るや意氣揚々として始業せんとするに當り可憐絲價は徐々に下落を來し已に目下の光景に至りてすら曩に狂奔甚だしかりしものは今や罷工或は倒産せんとするの悲境に達せり素より斯の如き浮薄の輩は論ずるに足らずと雖も之を國家經濟上に徴せば實に坐視するに忍びざるなり今之が救濟の道を講ずるも已に及ばずと雖も前車の覆るは後車の戒めなるを以て其良策を講ずるは實に目下の一大急務ならずや

抑も製絲業を維持するに三要あり即ち原料の購入、工女の使用、生絲の賣却、是なり夫れ原料の購入は尤も重要なるものにして其結果の如何は該年の利潤損耗の基するものなるを以て能く其方針を定め沈着にして鋭意の運動をなし宜く其機に投ぜずんば目的を達するを得ず工女使用の如きも亦忽せなるべからず製絲の業たる他業に蹤を貴重にして且つ精細なるものなるを以て機械力を利用するも僅に運轉に止まり概ね手術を要するものなるが故に能く其良法を定め褒貶を明かにし恰も子弟に對する如く温和に之を使役し自ら其業務を樂ましめ間斷なく注意を加へて發達を計り以て之が報酬を重からしむるにあらざれば精工を集むるを得ず然り而して右二者の如きは幸に各自の注目する所にして其業に經歷せば自ら得るありと雖も獨り最も重き生絲賣却の一點に至りては注意甚だ冷淡にして曾て本邦東部の横濱港に轉々輸出して之を不信の内商に委ね虎狼にして飽くを知らざる外商を以て無上の顧客となすの外他に目的なきもの〻如し嗚呼眼界の狹隘も亦甚しからずや

夫れ生絲は我國物産の首にして價格も亦他物に超越せり斯る至重の物産をして不信の賣込商に委托し以て默慾の外商に嚮がしめんとするが如きは實に危險の業と謂はざるを得ず左に横濱に於ける目下の弊習を掲げて以て當局者の參考に供せんとす

生絲市場の如きは常に海外の影響を受け變動甚だしきものなるを以て其荷主たるものは時々實況を目擊し機敏の運動をなさゞるを得ず然るに横濱港は本邦の東部にありて我關西地を距る甚だ遠隔なるを以て其實況を視察せんとするも容易ならず故に通信に托して進退を決せんとするも往々通信中に於て其要機を誤る事

横濱港に於ける内外商人の實情を熟視するに開港當時の奢慣に泥み目下の盛況に達するも猶昔日の境を脱する能はずして之を輕侮し共に屬行するの意なく外商は常に我商權を弄して内商を辱かしむるも賣込商の如きは之を憂へずして唯彼我の中間に立て瞞着以て己を利するの外毫も商權の擴張を計らざるのみならず荷主をして軟弱ならしむるの目的を以て同業者規約を設け堅く之を守りて荷主を不利ならしむる等勝げて數ふべからず

横濱港は常に金融逼迫なるが爲めに貸附に係る諸利子甚だ高貴なるのみならず凡て生活の度各地に超ゆるを以て經費を重からしめ殊に物品に對する扱ひ甚だ粗漏にして不慮の損害を被らしめ或は原因なき量目の減耗を生ぜしむる等屢々なり

前陳の如く横濱港に於ける弊風は枚擧するに遑まあらざるは已に當局者の了知する所ならん知て之を矯むる能はずして默視するが如きは豈に吾々當業者の本心ならんや是に於て熟々我關西の要港神戸を見るに本邦の中央に位し商業の中心たる大坂市に接續せるを以て内外交通の便は横濱に亞ぎ殊に港灣水深くして大船碇繫の至便なるは同港の比にあらざるなり天已に斯る良港を我關西人民に授く然るを之を弃てゝ迂遠の横濱に輸出し自ら不利を招くが如きは所謂天理を知らずして破るものと何ぞ異ならんや希くは吾信愛なる關西同業諸氏よ其販路を確實にし已が業を貴び已が利益を計らんと欲せば姑息の小康を措き宜く天理を應用し以て前途の長計を立て速に同志相結合して至便の神戸港に一大共同販賣所を起し其方針を一定にして互に氣脉を聯通し以て我商權を發達せしめ自ら販路の擴張を計らんことを國家の爲めに我關西製絲家諸氏に望む

◎統計

◎横濱市場に於ける五箇年間の生絲統計

明治二十二年より二十六年に至る五箇年間（七月より十二月まで）横濱市場の生絲輸出高及入荷高を比較すれば左の如し

○生絲輸出比較表

仕向地	二十五年	二十六年	二十四年	二十三年	二十二年
米國	九、三二七俵	二一、九六六俵	一九、八〇九俵	八、〇九一俵	一五、一二二俵
歐洲	一五、二九一	一三、一四四	一一、〇〇三	四、四九〇	一二、五〇一
合計	二四、六一八	三五、一一〇	三〇、八一二	一二、五八一	二七、六二三

〔備考〕一俵は凡そ和百斤餘にして日本個の凡そ一個八分に當る者なり

○生絲入荷比較表

	二十六年	二十五年	二十四年	二十三年	二十二年
	七九、一一一個	七七、九四〇個	八三、七〇七個	五〇、四四一個	六四、四一九個

〔備考〕一個は凡そ五十六斤に當る者なり

◎世界諸國生絲差出高

近着の英國商務院月報に佛國經濟雜誌より轉載したる所に據れば千八百八十八年より同九十二年に至る最近五箇年間諸國生絲の產出高は左の如し

國名	一八八八年	一八八九年	一八九〇年	一八九一年	一八九二年
西歐諸國					
佛蘭西	七九、八千斤	六一、八千斤	三五、〇千斤	五六、六千斤	六〇、八千斤
伊太利	三、五六六	二、八八〇	三、四四三	三、二一〇	二、九六五
西班牙	八三	六五	八三	九〇	七二
澳地利匈牙利	三〇七	二六七	二七一	二八一	二二〇
小計	四、七五四	三、八三〇	四、四四七	四、一四七	三、八六五
地中海東岸諸國					
アナトーリア（アローサ及其他ノ地方）	一七〇	一八五	一八一	一三五	二〇六
サロニカ、ザキロー、アドリアノープル	一二〇	一一〇	一二〇	一二〇	一三五
西里亞	二三一	三二四	三九〇	二九〇	三五〇
希臘	一八	一八	一八	一八	一八
小計	五三九	六三七	七〇九	五六三	七〇九
中央亞細亞					
高加索	五〇	七〇	八〇	七	六五
經東諸國					
支那（上海ヨリノ輸出高）	二、三五五	二、九一〇	二、七二〇	二、九五五	三、三八〇
（廣東ヨリノ輸出高）	七七五	一、六〇〇	一、二四三	一、二〇一	一、四七六
日本（横濱ヨリノ輸出高）	二、四四一	二、一二五	二、〇一八	二、九九四	二、八五八
印度（カルカツタヨリノ輸出高）	六七四	二一〇	二二四	二二九	二五〇
小計	六、二四五	六、八四五	六、二〇五	七、三七九	七、九六四
總計	一一、五八八	一一、三八二	一一、四四一	一二、一五九	一二、六〇三

◎廿六年十二月中生絲屑物輸出數量元價及收稅統計

種目	數量	元價	收稅
生絲	六七二、三一七斤	四、七〇四、六〇七、六九〇円	一六一、七六二、一八〇円
玉絲	二一	六〇、〇〇〇	一、三五〇
熨斗絲	一五九、七二一	一七五、四〇五、五〇〇	三、八五一、七九五
屑絲	三〇〇、〇二〇	二三四、三六四、九九〇	二、一七〇、五七五
空繭	五九、五九五	四七、七四三、二〇〇	一、三四一、三八六
計		五、一六二、一八一、三八〇	一六九、一二七、二八六

◎廿六年十二月中絹布類輸出數量及元價統計

種目	數量	元價
羽二重	一六、一一四反	三二〇、三〇五、四四〇円
他の諸絹布類	九、一〇〇	九八、四一二、八四〇

絹綿布類	三八二	一、三二一、七〇〇
絹布手巾	九七、五七一	二五一、七五七、〇九〇
絹製品類	〇	二八、三七三、六〇〇
計	二五、五九五 / 九七、五七一	七〇〇、一七〇、六七〇

◎一月中横濱生絲手合高同最高價格及外國爲替相場表

日	種目	手合高	手合最高價格 製絲場名	手合最高價格 價格	外國爲替相場 倫敦參着	外國爲替相場 里昂參着	外國爲替相場 紐育參着
一	日休						
二	日三千百九十一個半	上州麓水社器械(細)	八百四十弗				
三	日休						
四	日二百九個	信州本六工社器械(太)	八百十弗	二志三片		二法八十四參	五十四弗
五	日二百九十四個半	飛州朝六社器械(細)	七百七十弗	仝	仝	仝	仝
六	日二百十五個半	信州富國館器械(太)	八百弗	二志三片八分ノ一	二法八十三參	五十四弗二十五仙	
七	日休						
八	日五百三十八個五括	陸前大成社器械(太)	八百弗	二志三片四分ノ一	二法八十五參	五十四弗五十仙	
九	日九十六個	上州麓水社器械(三人組印)(太)	七百八十弗	二志三片八分ノ三	二法八十六參	五十四弗七十五仙	
十	日三百五十六個	信州岳鳳館器械(太)	七百九十弗	二志三片二分ノ一	二法八十七參	五十五弗	
十一	日二百十六個	遠州鶴川器械(細)	七百八十弗	仝	仝	仝	仝
十二	日二百三個	信州六文錢器械(太)	八百二十弗	二志三片八分ノ三	二法八十六參	五十四弗七十五仙	
十三	日百三十七個	飛州共盛社器械(細)	七百六十弗	仝	仝	仝	仝
十四	日休						
十五	日八十二個半	丹波開林社器械(細)	七百五十弗	二志三片八分ノ三	二法八十六參	五十四弗七十五仙	
十六	日百五十一個半	信州鶴精社器械(細)	七百七十弗	仝	仝	仝	仝
十七	日百八十七個	甲州器械取合	七百四十弗	仝	仝	仝	仝
十八	日七十三個半	播州高砂器械(細)	七百四十弗	二志三片四分ノ一	二法八十五參	五十四弗五十仙	
十九	日三十七個	鄙山其製社蚕繰(優等)	七百四十弗	仝	仝	仝	仝
二十	日八十四個	前橋日新社蚕繰(優等)	七百四十二弗半	二志三片八分ノ一	二法八十四參	五十四弗二十五仙	
廿一	日休						
廿二	日百八十九個半	信州松城館器械(太)	八百二十五弗	二志二片四分ノ三	二法八十一參	五十三弗五十仙	
廿三	日百五十三個	上州碓氷社蚕繰(三人組印)	七百六十五弗	仝	仝	仝	仝
廿四	日百六十個	信州長信社器械(太)	八百弗	仝	仝	仝	仝
廿五	日二百七十一個	上州碓氷社蚕繰(五人組印)	七百四十五弗	仝	仝	仝	仝
廿六	日二百三十二個	美濃製絲會社器械(細)	七百九十弗	仝	仝	仝	仝
廿七	日百七十三個	尾州一ノ宮器械(細)	七百四十五弗	仝	仝	仝	仝
廿八	日休						
廿九	日三百七十七個半	山除製絲會社器械證印(太)	八百六十弗	二志三片四分ノ三	二法八十三參	五十三弗五十仙	
卅	日八十三個	美濃精拂社器械(細)	七百九十弗	仝	仝	仝	仝

冊	一	日七十六個	信州六標社器械(細)	七百五十弗	仝	仝	仝

〔備考〕本年初手合の摸樣は十九號雜報欄内に已に記するが如し夫より上旬は多少手堅き摸樣にして賣方少しく强氣張のため取引果敢どらず中旬よりは歐米共に不振の入電を聞くのみ殊に伊國銀行閉店等の電報ありたるが爲め當用口格安物の外は染みたる取引なく市況一般沈靜と評するの外なし

●問　答

◎蠶室内にて洋燈を用ふるの利害其他の件質問

新潟縣　大日本蠶絲會員　三輪爲次郎

(一)蠶兒の飼育中蠶室内に於てランプを用ひ敢て害なきや

(二)熟蠶上簇の際二尺五寸に三尺五寸の籠へ何百頭入位にて適度なるや

答

大日本蠶絲會技藝委員　藤本善右衛門

(一)蠶兒の飼育中蠶室内に於てランプを用ふるは更に害なし然れども石油を蠶兒に直接するは宜しからず故にランプを架するには其位置を注意すべし

因に云く從前蠶室内に火燭を秉るには種油(菜種を絞りたる油)又は蠟燭を用ひたるも輓近は一般にランプを用ふることゝなりしが實驗上更に害なし

(二)熟蠶上簇の際横二尺五寸縱三尺五寸の籠に上簇せしむる蠶兒は大凡三百五十頭より四百頭以内の目的を以て入巢せしむるを適度とす

因に云く從來長野縣鹽尻地方にて用ふる熟蠶入器即ち木鉢は差渡外法曲尺九寸深さ一寸五分の底淺きものに蠶兒を平分に入れ籠一枚に上簇せしむるの標準とす之を用ふるは頗る便なり

◎煮繭法に付き質問

島根縣　大日本蠶絲會員　寄藤律太郎

(一)製絲中繭を煮るに始終百九十度位の湯にて煮熟せしめたるものと始終沸湯にて煮熟せしめたるものとは乙は甲より絲量を減ずるとはなきや若しありとせば其幾分を減ずるものなるや尙ほ他に前兩者得失の點あれば詳細の指示を乞ふ

(二)繭の上り易き繭を繰絲するには若煮にして湯の熱きものにて練製すべきか或は十分煮熟せしめ温るき湯にて練製すべきか

答

大日本蠶絲會技藝委員　高橋信貞

(一)繭の性質殺蛹貯藏の如何に由り差異なき能はざれば一定則を以て實施すること難し加之氣候の寒暖女工の巧拙亦幾多の關係を有するものなればなり故に現品其物に就き温度の適否を定むるを要す元來繭を煮るの目的は蠶の營みたる絲綫に含有する粘着物即ち護謨をば適度に溶解し蠶の營み作りたる順序を追ひ解舒するにあるを以て煮へに過不足なからしむるの必要ある所以なり煮へ不足なるときは護謨質の溶解十分ならざるを以て解舒澁難にして切斷し易く爲めに求緒を再三せざるを得ず是

を以て自然絲量を減耗す又爽へ過ぎたるときは蠶蓐質を減耗し絲力を脆弱ならしむるを以て切斷し易く是亦求緒を再三するの不都合を來し隨て絲量を減耗するに至るべし故に現品に就き過不足なからしむるを務むるの外良策なかるべし兎に角華氏の二百度前後を目的とし偏煮なからしめ繭躰一樣に湯の浸潤を圖ること肝要なりとす

(二)額の上り易き繭とは綿肌、鳌絨肌等の如き縒りあしき肌の繭を指したるものなるか果して然らば尋常繭よりは較や若爽になし熱き湯にて出來得る限り手術を早くし時間の長きを費さゝるやう務むること肝要なり

◎四化蠶及節溫器に關する質問

山形縣　大日本蠶絲會員　齋藤鉉藏

(一)四化蠶は秋蠶に比すれば强壯にして飼育し易しと果して然るか

(二)四化蠶の繭は春夏秋の繭に比して其大小絲質の良否及纖維の細大如何

(三)伊東忠三氏の新發明に係る節溫燈爐なるものは是迄世間にて用ひ來れる所の爐に比して養蠶上特効あるものか

答

大日本蠶絲會技藝委員　高橋信貞

(一)質問の如く秋蠶よりは飼育し易きものならむ

(二)春夏秋の繭に比すれば其形狀率ね小なり其甚しきに至りては水桝一升に五百顆内外を容るべし絲量は春蠶に比すれば太だ少なく夏秋の兩繭に比するも亦少なし纖維は細緻にして細向き生絲の原料と爲すに足る

(三)伊東忠三氏發明の節溫燈爐は實驗せしもの未だ多からざるが如し然れども一見其便利なるを覺ゆ該器効用の要は載せて本會報十九號問答の部にあり請ふ參看せられんことを

◎蠶卵催青法其他に關する質問

愛知縣　大日本蠶絲會員　山内秀三郎

(一)松永先生の講義中蠶種は掃立前二週日乃至二十日以前に貯藏所より取出し以て大に心掛ると肝要なりと云へり然れば桑樹開綻の狀況如何なる摸樣を呈せしときに方りて蠶種を貯藏所より取出すべきや

(二)全先生の講義中蠶兒發生前俄に冷氣に逢はしむるときは蠶卵内に死し發生せずと云へり生前年下蟻するに方り發生後直に斃死したる蠶兒數百頭あるを發見せり因て之を顯微鏡にて檢査せしに更に病毒を見ず是れ發生前誤て冷氣に感ぜしめたる故ならんと想像せり然るに不可思議なるは其年の蠶兒頗る强健にして殆ど滿作の成繭を得たり是れ生が未だ氷解し能はざる一疑團なりとす但此僥倖は其年の氣候適順なりしに因るや

(三)青熟、又昔、小石丸の三種は繭壹升の顆數幾粒位のものを撰ぶべきや

(四)青熟、又昔、小石丸の各種を製絲に適する樣改良せんには如何なる形狀如何なる縮緻のものを撰擇すべきや

(五)又昔、小石丸の二種は青、赤兩熟中孰れの蟲質を撰ぶべきや

(六)又昔、小石丸固有の形狀及又昔、小石丸の二種として撰擇すべき理由且其優劣如何

(七)桑樹早、中、晩の各種中最も善良なる種類の名稱を問ふ

(八)最も善良なる苗木の仕立法如何及伐出し苗の製造法如何

(九)會報第十五號問答欄内練木先生の應答に桑の萎縮病は栽植後早きは三四年乃至六七年遲きは十數年を經て始めて發すとあり生が桑園は栽植後既に十數年を經たり然るに兩三年前より少しく萎縮病を發せり斯く十餘年間無病なりし桑樹の近年に至り俄に萎縮病を發する理由如何

(十)桑樹萎縮病試驗報告中實生苗木は最も劇烈に病患に襲はるゝ傾向ありと云へり生は四五年前市平の接木苗を購入し之を無毒地に栽植せり然るに翌年より續々萎縮病を發し爾後毎年壹貳割つゝ該病患に罹れり是れ其苗根に害菌の存在せし故なるや將た實生臺木の接苗なるに因るや及實生苗の萎縮病に襲はるゝこと甚しき理由を問ふ

(十一)全報告中楮樹を臺木として桑枝を接木せしことを載せたり其成蹟如何且其桑葉は蠶兒に無害なるや又楮樹は萎縮病に不感染のものなるや

(十二)伊奈一又四方咲と云ふ桑種は他の桑樹に混じて栽植せしに伊奈一に限り萎縮病に罹らずと云へり此結果は各地共同一なりや又此伊奈一に限り萎縮病に罹らざる理由如何

(十三)蛾の檢査中發見する最小微粒子形のものは蛾の貯藏惡しきより生ずるものに非ずして蠶より蛾に寄生し蛾をして虛病ならしむる一種の害菌なるや

(十四)框製蠶蛾檢査中諸種の微菌寄生するものあり此微菌の寄生を豫防するには蛾の產卵後直に爐中に入れ乾燥し置くべきや

答

大日本蠶絲會
技藝委員　松永伍作

(一)幼蠶に用ふべき桑樹將に開葉せんとする頃催青に着手すべし

(二)蠶種貯藏若くは催青中幾分の障害を被ふり虛弱なる蠶兒發生するも其飼育中氣候適順にして而も飼育者の注意周到なれば豐作することなきにあらず

(三)青熟、又昔、小石丸の三種成繭一升の顆數は二百五六十乃至二百七八十顆位を適當とするものゝ如し然れども何種に關せず絲質良好にして絲線適度(檢尺器四百回に付き二デニール半位)なれば大巢即ち二百二三十顆にても宜しとす

(四)繭形は稍や長形にして縊れ目深きに過きず縮皺中位のものを宜しとす

(五)又昔、小石丸の蠶兒中稍や赤く熟するものは形狀齊一なる繭を結び青く熟するものは之に反するものゝ如し故に赤く熟するものにして絲質良好なるものを撰ふべし

(六)又昔の繭形は概ね稍や長形にして縊れ目淺く小石丸は稍や短形にして縮皺細密又縊れ目は深きものゝ如し然れども近來各地に產出するものは該二種共に其繭形蠶種家に由り異形のもの多し例へば又昔の中にも甲の蠶種家は長形のものを撰び乙の蠶種家は短形のものを撰べばなり

(七)早、中、晩の桑樹中早桑は市平、多胡早生、大縮緬、柳田、中桑にて青木、鶴田、九文龍、赤木、魯桑、晩桑にては十文字、山中、高助、細枝等良桑なるが如し

(八)桑樹の仕立法は壓條法中傘式、丁字式の二法にして著るき差異なきの良法なりとす而して伐出し法は該二法にて得たる苗木中成長不十分なるものを深さ三四寸畦間二尺苗木の距離五寸位に假植し發芽前に於て地上平面に伐取り其年の新芽を成長せしめたるものを云ふなり

(九)桑樹に縮葉病の發するは栽植より四五年目のものに多けれども十餘年を經て後に生ずるものも亦なきにあらず而して該病の生ずる原因は未だ明瞭ならざれば隨て栽植年限の長短に由り病に輕重ある理由は不分明なりとす

(十)實生苗木に縮葉病の劇烈なりとは農商務省試驗委員調査の成蹟なるべし而して質疑者の云へる市平苗に發病せしこと及實生苗木に病害多き理由は猶ほ不分明に屬す

(十一)楮樹を臺木となして接木せし桑苗の成蹟は未詳なれども果して該接木苗にして成木するものとすれば其葉を用ひて蠶を飼育するも敢て害なかるべし

(十二)伊奈一と云へる桑に病害の少なきは蓋し該種の性質なるべし

(十三)蛾の檢査中發見する最小微粒子形の寄生物は蠶兒より蛾に傳はるものなるや否は未詳なれども該寄生物を含有せる蛾は幾分か虚弱なるべく思はる

(十四)蠶蛾貯藏中に生ずる黴菌を防ぐには產卵後直ちに火氣を以て十分に乾燥せしめ然る後尙ほ水分を含まざるやう貯藏すべし

◎桑樹栽植法に付き質問

新潟縣　大日本蠶絲會員　五十嵐惇爾

桑樹を畑に植うるに一段歩に植うべき本數の蠶出法は如何（例せば四尺に三尺の距離を以てして植うるとせば）

答

大日本蠶絲會技師委員　松永伍作

例へば一段歩の畑にして縱二十間即ち百二十尺横十五間即ち九十尺なるありて之に桑を植うるに横に四尺の畦間となし條間を三尺とすれば九百本となるべし

◎製種法に付質問

滋賀縣　大日本蠶絲會員　菅田重助

(一)我地方の或製種家曰く蠶種製造の際蛾を暗所に置くときは產卵の歩合多く且つ蠶種面平滑にして蠶種の外觀宜しく製種家に利ありと果して斯の如き理由あるや

(二)產卵の歩合は明暗喧靜に關係なきものなるや

(三)蠶紙に蛾を附け釣りて產卵（俗につりべりと稱す）せしむるものと平面上に置き產卵せしむるものと孰れを宜しとするや

但余は釣りて產卵せしめば直ちに卵基を動搖し幾分か卵に害を被ふらしむべしと信ずれども此法に依て製せし蠶種にて例年豐作せしものあり此理由の說明あらんことを希望す

答

大日本蠶絲會技師委員　松永伍作

(一)暗所にて產卵せしむる方幾分か多く產出するものゝ如し然れども卵面の外觀には敢て差異なきものとす

(二)蠶種製造室は暗く且つ靜なれば產卵多く明かるく又喧しければ產卵少なきものゝ如し

(三)平面上に靜置して產卵せしむるを宜しとす

但臺紙を釣り置きて產卵せしむるも甚だしく動搖するに非ざれば敢て害なきものとす

◎蛾の檢査上に就て質問

熊本縣　大日本蠶絲會員　木村三次郎

(一)蛾の檢査を行ふに一蛾を一鏡面とし或は一蛾を十鏡面として檢査するの差違あり孰れを執りて宜し

きや併せて其理由を聞かん

(二)又蛾の檢査を行ふに翅の下より切りて頭部と腹部とを見るの差違あり是亦孰れが可なるや且つ其理由をも聞かん

答

大日本蠶絲會技藝委員　芝山宗太郎

(一)蠶蛾の微粒子毒を檢査するには一蛾を一鏡面となし(臨視鏡面の意にあらず)該鏡の全面を成るべく丁寧に視察するものとす之を爲すには一鏡面に對し少くも十回以上の視察を要す若し一蛾を十鏡面とし每鏡面十回以上の視察を爲すときは一蛾に附き百回以上の割合なるを以て檢査上精密なりと雖も夥多の時間と費用とを要するのみならず現今の實況に照すも其必要なきものとす

(二)蠶蛾の檢査を爲すは翅のみを除きて全躰を磨擦するにあり、然らざれば病毒發顯に多寡あるを以てなり

●外報

◎佛國養蠶景況

去る二十六年佛國に於ける養蠶景況に附き里昂駐在帝國領事代理副領事蕉崎寛長氏より過般其筋へ左の如く報告ありたり

昨二十五年佛國に於て孵化に供したる蠶卵高は二十二萬七千百五十六「オンス」にして蠶繭收獲高は七百六十八萬百六十九基なり今當國農商務省の調査に據り當國本年の養蠶成跡を査閲するに孵化に供したる蠶卵高二十二萬五千十二「オンス」昨年に比すれば二千百四十四「オンス」を減ず)にして收獲繭の量數は九百九十八萬七千百十基に達せり即ち昨年に比すれば反て二百三十萬六千九百四十一基の增加を呈せり此上作を致せしものは主として氣候甚だ適順なりしに依るべし

養蠶地は昨年と同數にして二十四縣養蠶者員數は十四萬八千九百七十一にして昨年に比し七千四百八十四名を增せり

孵化に供したる蠶卵高は前記の如く二十二萬五千十二「オンス」(但し二十五「グラム」を以て一「オンス」とす)にして其內譯即ち左の如し

佛國種	二一、二、三九二[オンス]	昨年分	二一、三、九五九[オンス]
本邦種	一、九三三	同	二、五八一
復製日本種	五、八三七	同	六、四七六
其他外國種	四、八五〇	同	四、一四〇

收獲生繭高は九百九十八萬七千百十基にして其內譯即ち左の如し

佛國種	九、五二四、一三七[基]	昨年分	七、三〇五、〇八六[基]
本邦種	六七、四三五	同	七三、四六六
復製日本種	二一一、八四九	同	一八一、二二一

其他外國種	一八三、六八九	同	一二〇、三九六

蠶卵一「オンス」に付する生繭産出量は左の如し

佛國種	四四・八四二	昨年分	三四・一四二
本邦種	三四・八八六	同	二八・四六四
復製日本種	三六・二九四	同	二七・九八三
其他外國種	三七・八七四	同	二九・〇八一
製種に供したる繭高	一七六、〇九一・〇〇〇	同	二五二、四八一・〇〇〇
夫より製出したる蠶卵の高	四七二、八五三〔オンス〕	同	六六三、八七七〔オンス〕

蠶卵一「オンス」の賣價は左の如し

佛國種	十法四十一仙	昨年分	十法
本邦種	十一法二十一仙	同	十法五十仙
復製日本種	九法五十三仙	同	九法四十八仙
其他外國種	九法四十四仙	同	九法一仙

生繭一基の價は左の如し

製絲用の分佛國種	四・三四法	昨年分	三・二五法
同　本邦種	四・六六	同	三・三五
同　復製日本種	四・六四	同	三・二六
同　其他外國種	四・七一	同	三・一五
製絲用の分佛國種	五・〇九	同	三・九五
同　本邦種	五・七五	同	三・九二
同　復製日本種	五・三六	同	四・九一
同　其他外國種	四・九六	同	四・一二

◎佛國里昂絹絲商況（廿六年十二月二日附報）

絹物　各需用地よりの報告好景氣なる爲め市場の人氣は大に引立ちの色あり米國よりの報告も至極好望にして倫敦に於ける相場は依然安價なれども在荷は需用日に向つて捌け行くの風情あり巴里に於ける小賣の景氣も季節物至つて活潑なるが故當業者皆滿足の面地にて春季の注文に對し充分の數量を申込めり然しながら巴里其外需用地の中心にても未だ春物の賣行きに就き流行の品定まり難きものゝ如し然し今日のところにては白無地後染の品より染織の方賣行き多きものゝ如し繻子地類は相變らず賣行きあり絹組織は依然變りなく羽織は現品の賣買好景氣なるに似ず先物の取引は至つて少なし

生絲の市場は相場尙ほ下向きにして需用未だ進まず市勢自ら沈勢なるが此現狀にして押行かば持絲連の耐へ難くして市場に投賣りを始むるの機來らんかと孰れも心配の姿なるが其以前に於て假令利益は皆無なるにせよ持耐へ得る丈けの地位に恢復を爲すを得ば幸運といふ可し

上絲　即ちセヴェン生絲は割合に賣人多き樣子なるが此は市場の人氣亞細亞絲に傾けるが爲め買氣を催したるも相場は依然弱氣なり

絹物　に於ける目下の需用幷に前途の好況なるにも拘はらず生絲の市場は是が爲め影響を受けざる所以に就ては怪む可き次第ながら此は全く米國人の未だ尻込みして吸收に躊躇すると伊太利の金貨打歩の騰貴と銀貨下落等其主因なるものゝ如し然しながら此形勢何日迄持續す可きものか固より判定の限りに非ずと雖も横濱市場にては前週來米國向き相應の手合せあり是恐らくは景氣幾分か恢復の前兆ならんか銀貨の下落も最早大概の底位に達したれば此先の變動は恐るゝに足らざる可く伊太利の打歩も最早昇進す可きものに非ずと開けば市場も大方此邊にて弱氣の程度を示すならんと思はる

相場　安價なる亞細亞絲は市場に需用多くセヴェン二番/十三四十八、伊太利一番/十三四十七、八法なり

◎伊國美蘭絲況（廿六年十二月七日附報）

絲況　はクレヂット、モビール銀行支拂停止の爲め一般不振にして更に進歩の色なく僅計りの買入も今は市場を立去りし姿なり故に金貨打歩の動搖に引續きて人氣は更に不安心となりたり

閉鎖　したる銀行即ちクレヂット、モビールが生絲に對し貸出したる高は金貨にして百五十萬弗より二百萬弗の間に居れるが此金額は閉鎖の當時迄其儘なりしと云ふされば此俄然たる影響は市場に直接の波動を與へて困難を生ず可き筈なるが未だ左程の景況なし併し生絲荷主は足を跛て金融恢復を希ひ居れり

（以上二件横濱貿易新聞）

◎英國倫敦絲況

市場は尙ほ未だ面白からずして何品を問はず弱氣なり中には未曾有の低價を現はしたるものも尠からざるが支那絲は賣急ぐ爲め殊に其氣味あり石炭大同盟罷工終りを告げ石炭の價格次第に下落するも豫

想の如く絹織業の隆盛を來さずして生絲は段々入當むより市況をして益す不振ならしむ今十一月迄に於ける生絲聚散の摸樣を記せば左の如し（エートン、エンド、ソン商會報告譯）

	十一月迄に賣れたる分	十一月迄に賣れざる分	十一月中に引渡されたる分
	明治廿五年	廿六年	廿六年
ベンガル絲	七七八俵	一、五九〇	三五
支那絲	六、七五六	六、五八〇	五、六七〇
支那大野蠶絲	八一	一〇七	七三
廣東絲	一、八八四	二、四七三	三四六
日本絲	四一八	五六四	三〇〇
合計	九、九一七	一一、三一四	六、四二四

廿五年　廿六年　廿六年　廿五年　廿六年

	廿五年	廿六年	廿六年
ベンガル絲	一四三	九六	六〇
支那絲	六、七九〇	九六二	九一三
支那大野蠶絲	四三	五八	二三
廣東絲	四八三	一五六	一一一
日本絲	七六九	六八	四三
合計	八、二二八	一、三四〇	一、一五〇

◎米國紐育絲況

横濱同仲會社紐育支店より去る二十六年十二月二十九日附を以て横濱なる全本店に達したる絲況は左の如し

日本、支那、伊太利の絲ども相場は依然として同樣なれども目下新年の休日に迫れる爲め全く需用なし織屋は概して棚卸し勘定に取掛り本年度の帳尻を括り最早年内借越高の帳目を開くは意なきものゝ如し併し其内實を窺へば何れも春商賣の新注文（特にリボン類を多しとす）を受け込むの望みあり（甚だ僅づゝながら現に弗々注文を出しかけたり）と信ずるもの多ければ來る一月十五日より三十日

迄の間には生絲の取引も相應に開くるならんと察せらる唯此際聊か懸念すべきは彼の繊屋の年末決算の如何なる結果を示すべきやに在るのみ

扨聞く所に據れば彼のウィルソン關稅案の實施を二年間延期せんとの動議を上院に提出せんとの事にして其提出は二三週日以内に在りとの事なり該案にして愈よ延期せらるゝものなるときは大に人々の信用を恢復すべく隨て諸商賣とも一般に好景況を呈するに至るべし此信用こそ我々も進んで商賣を爲し得るに至るべし

右の關稅問題もさる事ながら尙ほ外に諸商業の繁昌を妨ぐるものは頃日來非常の不氣候なる一事にして爲めに一般の小賣營業を害せられ其賣高は昨年に比し殆ど半額を減ずるに至りたり云々

●雜報

◎大婚式御備付の絹絲製島臺

來る三月九日を以て御擧行遊ばせらるゝ大婚二十五年の御祝典に豐明殿及鳳凰間等へ御備付に相成るべき絲花の島臺五個は此程宮内省より中川新右衛門氏へ御注文に相成りしが之に用ふる松竹梅等は何れも絹絲製にして鶴と亀とを合せ一個の價數百圓を要する由抑も我邦無二の物産たる蠶絲が千古未曾有の大典たる　天皇　皇后兩陛下御結婚滿二十五年の御祝儀の盛式を御擧行遊ばせらるゝに方り御備付島臺の裝飾品となるは實に此上もなき光榮にして將來蠶絲の產出及需用は彌が上にも榮へ行くべき吉兆なれば我々蠶絲の業務に關係あるものは當日　兩陛下の聖壽萬歳を祝し奉ると共に蠶絲其物の爲めにも亦豈賀せざるを得んや

◎廿六年生絲貿易の概況（承前）

七月に入るも猶依然として外國爲替は下落の氣味なれば各商館互に買氣を萎し市場は益す信州太絲及關西細絲等の入荷出遲はりとなり適當品も饒にして隨て望人あり然れども賣手は爲替相場の下落を氣攜へ類に高張りたるが爲め六日頃に至り座繰、折返、提絲等可なりの在荷となり海外市場は所謂五里霧中といふ有樣なれば何となく内外商共に氣迷の姿にて殊に米國向は不振に歸したりさりとて賣手も氣折れせず殆ど不折合に經過せしが十日となりて聊か買氣を萠し信州七曜星社七百八十弗、信英社仝上江州彦根製絲細九百三十弗、信州明進社細九百二十五弗、等の取組あり夫れより中旬となり米國向一層不味の狀を呈したりされど歐洲向は之に反して弗々手合出來し絲價も何となく高摸樣となりぬ然るに外商は此高直に頓着せずして買出さんとすれば内商は俄に賣濟り先づ此十日間は米國向に踏込て買爆り氣も見えざりしが細物は一寸好景氣にて經過せり而して下旬に移るや二百六番及百六十八番等に新注文逢したりとの事にて類に買氣を現はしたり殊に英一番の如きは何となく見本を急ぎ江州、信州の細太兩絲を買收せり其價は信州俊明社太及仝東行社太共に七百九十五弗、江州細器械九百四十弗、信州七曜星社八百十弗なりき斯くて月末に至り或は直押或は破談等現はれ何となく市況稍や鈍き姿を呈し此月を越ゆることゝはなれり

八月　に入るも米國向は直段の如何に拘はらず望手殆ど皆無の姿にして只顧米國銀貨購買條例の成行きを氣遣ふものゝ如くなりしが歐州向細筋は一寸引直りたるかの感ありて買萠したるも内外商互に折合はず日々二三百梱位の手合に過きざりき而して中旬に移るも別に變動なく尤も外國爲替は益す下落し紐育參着五十九弗二分一となり當時絲價は信州開明社細八百四十五弗、信陽館太七百八十弗にして内商も愈よ賣退けんと急れども細物のみ多少の望手ある迄にして兎角に面白からざりしが十八九日の頃は四五百梱内外の手合出來し下旬に至り爲替相場は一寸高含みを示し殊に香しき注文もなく二十五日頃は案外なる飛直の直開きありて前約中破談又は非常なる直押ありて一層不振となれり而して海外市場を顧みれば例のシヤーマン法廢止と否との問題は米國商業世界を攪亂し爲めに一時機業家は器械の運轉を止め資本家は貸出金を廢し或は倒産或は閉業と實に非常の恐慌を來し一般に商賣休止の姿なれば我絲況に影響を及ぼし殆ど困難の域に達せりされども地方の地元は之に反して頗る高直なれば荷主は自ら氣丈に見えたり

九月　に移るや一日早々思惑買者の現はるゝありて何となく市場を刺戟し百九十三番の如きは信州物の買收に着手し他館も弗々取入るゝなど幾分か手合高も加はりたるが相場は跳れも七百三十弗前後に過ぎざりき而して中旬に入り外國爲替段々の下落も一寸小戻りの姿にてありしが市場は却て買氣見えし上州座繰碓氷社五人娘六百九十二弗半、交水社六百九十弗の見當にて手合出來したるも兎角直開き多かりきされど細物は二三百梱づゝの取引もありて何程か底意手堅く見受けたり下旬は何となく頭重く直押益す行はれ七弗乃至十弗方の安直を示したり要するに此月も不振に經過し去れり

十月　となりては外國爲替益す下向くが爲めなるにや不振ながらも百九十三番の如きは器械及座繰共に一寸買煽りといふ工合にて百九十八番、九十番、八十九番等跳れも弗々買廻りたりされど前約物中兎角破談又直押がちにて氣配は何となく面白からざりき而して中旬は如何なる市面かといへば天氣は悪しく海外の入電も思はしからざりしが十三日の朝となり九十五番は新注文にてもありしか一手に買出し始め夕刻迄に千四五百梱も取入れ一寸色付きたる有樣なりしが他館は跳れも取急ぎがちにて拜見濟の甲州山梨絲は二十弗の直押しすらありたり併し歐洲向八百弗以上の品は彼是望手もありて手合も弗々出來たり下旬も亦著るき變動なく信州細物の多少買氣ある位にて一般の景況は米國上院に於けるシヤーマン法不通過の摸樣を氣遣ひ居たるものゝ如し扨當時の絲價は信州最信社七百四十弗、折返し協同造三頭馬首六百弗なり又外國爲替は非常の大下落を示し横濱正金銀行にては倫敦參着二志四片、紐育參着五十六弗と改めたり斯くて此月も將に終ちんとするに際し米國上院に於けるシヤーマン法は無條件にて廢止することに決せりとの入電ありしかば俄に内外商の氣立ちを示し一千有餘個の手合出來したるが跳れも五六弗より十弗乃至十五弗又品によりて二十弗の高直を現はせり而して

十一月　一日となれば朝來何となく市場活氣を帶び諸館跳れも買進み一千五六百個の手合を見るに至れり當日の標準相場は信州最信社及同蠶湖社共に七百五十弗同明信社七百八十弗、同龍上館七百四十五弗、上州甘樂社赤字七百十弗、折返し協立三人娘六百弗、上州天原社六百九十弗又同日の外國爲替は前日即ち十月三十一日の相場より一層安摸樣となり横濱正金銀行は倫敦參着二志三片二分一、同四ヶ月渡二志四片、里昂參着二法八十九參、同四ヶ月渡二法九十三參、紐育參着五十五弗、同四ヶ月渡

五十六弗と引下げたり然るに此活潑なりし市況も其後南三日間は饒馬などの爲め俄に靜穩となり爲替も一寸引戻し市面何となく落着きの方に傾けり越えて中旬に至るも格別望手なく十七八日の頃には外國爲替も次第に下向きたれど兎角內外商直組の折合はざるより一向に手合も出來ず內商は益す困難の地に陷れりされば下旬に入りても甚だ思はしからず外商は只管內商投賣の時機を待つものゝ如く愈よ底入り摸樣となり在荷は三萬一千餘個に及び益す安直の極に達したるが驚て二十七日となり甲九十番其他の外商等は此處を買占め所と見當を付けたるにや突然一手に信州品の買占めを爲し內外商に一大驚を喫せしめたり內商も今は持耐へ兼たる塲合とて先を爭ひ荷を持込み最も忌むべき投賣を爲したり其相塲は武州兒玉社器械四十五個六百四十弗、三州國益社細器械十六個六百九十弗、岩代會津坂合絲器械三十個六百八十弗なり斯の如き投賣は大に前途賣崩しの誘因として心あるものは竊に憂慮したるが何にもせよ在荷嵩みの時なれば各元賣家も賣放を希望するものゝ如く引續き甲九十番は殆ど一手買占めともいふべき大取入を爲し二千三百捆の品は大略彼の手に歸したり併し其相塲は二十七日より幾分か手堅かりき既にして

十二月　上旬に入るや絲價は五弗又は十弗と漸次上進し日々可なりの手合出來たり故に市塲は續て活氣あり何となく手堅く持合ふ中にも內商中一寸强氣に傾き賣進る向もあれば自然と高直の方向に進み器械太絲の如きは益す高直を示し信州信陽館は六十弗內外の間に進めり夫れより中旬となりては品により十弗高にて中細筋弗々賣行き上旬に比すれば稍や沈靜となりしも底賣は十分手堅く經過し在荷漸次減却して二萬七八千臺となり內商一般强氣賣惜みに傾きぬ而して二十日前後は座繰折返し絲等高直を示すに至り有名品は孰れも前旬より拂底を稱し折合はず一寸手合薄き方に立至りたるが下旬に入るやクリスマス前の絲況として商業家も頗る注意する所となりたれば相應に景氣附きて同祭日すら多少手合ありたりされど其後は追々歳末多忙の際に向ひたれば市塲は漸く靜穩に歸したり

以上列叙する所は明治二十六年に於ける生絲貿易の大要とす若夫れ其詳況に至りては月々既に報道したれば今復た之を贅せず

◎蠶業傳習生の授業開始

農務局所轄西ヶ原蠶業試驗塲に於ける本年の傳習生は各府縣より七十七名を招募せしに七十二名の申込ありて本月一日迄に入塲せしは六十九名外に傍聽生二十七名なりしと同日は藤田農務局長臨席して一塲の演說を爲し翌二日より夫々授業を開始せり目下の學科目は動物、理學、化學、養蠶術、蠶躰解剖、蠶躰生理等にして主任教師は練木喜三、松永伍作、大林雄也、本多岩次郎、芝山宗太郎の諸氏なりと云ふ

◎西ヶ原蠶業試驗塲

同塲に於て本年捕立つべき蠶種の蟻量は合計百匁位にして蠶種紙の種類は小石丸、青熟、支那種、鬼縮、赤熟、朝鮮種等なり其試驗の方法は連年繼續するものあり或は新規變更するものありて種々に施行することなるが本年の目的は主任の技術官協議の上更に決定する由なり

◎伊國ゼネラル銀行の閉店我生絲に一大影響を與ふ

伊國ゼネラル銀行が閉店したりとの電報去る一月十八日横濱正金銀行に達するや横濱市塲に於ける生

絲の取引は殆ど休業同様の姿にて舊來米佛の注電は兎角面白からざる景況なるが元來伊國は我邦と同じく輓近生絲を產すること大なるが爲め諸銀行の生絲に對して貸出しする金額は實に莫大にして美聞の貯蓄銀行と云ふ一銀行すら四百五十萬法を貸附けたる位なれば況してや伊國にて第一等に位するセチラル銀行に於て生絲商に融通を與へたるは最も巨額にして同銀行が同國の生絲市場に對して緊要の位地に立てることは論を俟たざる所なりされば同銀行にして閉店せる以上は從來業已に恐慌の爲めに困難しつゝありし生絲商が更に一層の窮境に沈淪し其結果は同國生絲の相場上に惡影響し施ひて我生絲も其餘波を被ふるは勢の然らざるを得ざる所なれば客月中旬の末よりして横濱絲況の萎縮不振なるは全く伊國セチラル銀行の閉店に基因するものと斷言するに躊躇せざるなり因に記す伊國財政の困難は固より今日に始まりしにあらず然れども彼の銀變以來一層甚だしくして爲めに金貨と紙幣との間に大差異を生じ遂に其打歩二割五分と云ふ非常の聲を聞くに至りたるのみならず其補助貨幣たる銀貨は隣國の信用を失ひて皆本國へ流込み外國との取引は日に月に益す困難を重ね來るに拘はらず政府は三國同盟に由りて政費を節減する能はず公債は愈よ下落して之を抱き込みたる銀行は非常の苦境に陷りたれば自ら恐慌を來し人々爭ふて其預金を取出し是が爲め同國のクレヂット、モビリー銀行は一月の初旬に脆くも倒產したるにセチラル銀行は幸くも之を免れたりしが其後人心の惶惑と財政の困難とは飢民を生ずるに至らしめ政府は之を鎭壓するが爲め非常の軍費を要し同銀行に托したる預け金を引出したるに由り終に閉店の不幸を見るに至りしと云ふ

◎蠶絲集談會に蠶絲協會

兵庫縣下にては蠶絲業組合中央集談會なるものを設け各市郡蠶絲業組合の氣脈を通じ毎年一回づゝ會同することゝせんとて其事を各組合に協議せるに續々賛成せし由又茨城縣下の蠶種檢査員諸氏は大抵皆農商務省所轄西ヶ原蠶業試驗場の修得生にして實地に學理を應用し夫々經驗ある人々なるが從來各地に散在して會合することなく爲めに互に氣脉を通じ智識を交換する等の利便欠きたりしに其人々は昨年蠶種檢査員に擧げられ一堂に相會するの好機を得たりしかば蠶絲協會なるものを創設して專ら業務上の研究を爲し且つ全縣内に於ける斯業の發達を計らんと種々協議を凝せしに多數蠶業者の賛成を得たるに由り遂に之を設くることに決し客臘十六日を以て水戸市の第二公園弘道館に於て發會式を擧行したる由各其地方の會員より曩に通信ありたれば稍や舊聞に屬すれども之を揭げぬ

◎常磐地方の蠶絲業

茨城縣常陸の那珂郡、多賀郡及福島縣磐城の菊多郡、磐城郡、磐前郡の如きは從來養蠶事業としては更に顧るものあらざりしに一兩年以來頓に長足の進歩を爲し一家にして二三百枚乃至四五百枚を飼育するものの出來し宮城縣下の蠶業と相對比して產額は敢て劣らざる迄に至れり然れども製絲の一段に至りては未だ甚だ幼稚なるを免れずして成繭は概ね上州信州邊の繭仲買が入込みて買收し去る由にて偶製絲を兼業するものあるも皆手繰りなるを以てデニールに不同あり其他劣等なるが故に價格上目方百匁に付き宮城縣產の製絲に較ぶれば金八九十錢乃至一圓の低位に在るを免れず是が爲め磐城の有志者中には教師を雇聘し機械を購入して製絲場を建設し將來養蠶製絲の事業を改良擴張せんと目下專ら奔走し居る由

◎生絲絹織物等貿易の豫言

二十七年に於ける生絲絹織物等の貿易に就て二三新聞の豫言を抄錄すれば左の如し但其言の當否は讀者諸君の判斷に任すのみ

郵便報知新聞　今年は我が日本人の儲け年なり今年ほど我が日本人の儲かるべき年柄はあらざるべし回顧すれば昨年初夏の交なりき余は公債利子低減論を唱へて世に公にしたることありしが幸にも余が此低減論は本年五六月頃に至りて將に實施せられんとするの時運に向はんとす

横濱生絲の在荷は二萬六千餘捆なり之に地方存在のもの及春挽絲を加ふるときは概算四月までに我が邦より海外に賣込むべき生絲は少なくも尚ほ五萬捆を下らざるなり余は爲替相場を以て五十弗までは下落すべしとの見込を抱くものなれども幷は何れにしても右の五萬捆は本年の四月までに悉く賣れ盡きん果して然れば四月までに我に金銀を吸收し來るものヂット見積るも二千萬圓なり此外屑物、羽二重等の絹織物にて少なくも六百萬圓は賣れん云々（雨宮敬次郎氏の談話）

時事新報　外國貿易に變態を現せしこと昨年の如きは實に稀なる出來事にして斯る變態は固より豫想し得べき限りならねど今既往の事蹟により將來の大勢を豫想せんに我貿易の前途好望なるは今更云ふ迄もなく昨年の如き若し銀價暴落の大波瀾なかりせば一昨年に比し輸入の進歩せしと共に輸出高も大に增加して充分の好結果を奏せしならんに種々の變態の爲めに輸出を沮害されしと雖も尚ほ輸出は輸入に超過して其總高に於て一昨年より九分六厘弱の增加を致せし程なれば銀貨の大勢も既に定まる所あり米國の恐慌も正に平常に復し本年は一層の增進を見ること疑ひなかるべし先づ重要なる輸出入品に就て之を云はんに昨年最も不振なりし

生絲　は米國不景氣の回復と共に年末より年首に掛け漸々活氣を呈し尚ほ上向きの商勢あり昨年七月より十二月迄の横濱入荷七萬九千百十一個の內昨年中賣行きしものは五萬四千餘個に過ぎず殘り二萬六千個許りは本年に繰越し尚ほ本年新絲迄に入荷すべきもの三萬個以上四萬個以下なるべしされば本年一月より六月迄に輸出すべき生絲は實に五萬六千個以上六萬六千個以下にして昨年後半期に比すれば却て多額の輸出を見るべき見込あり尚ほ歐米の絹織物續て好況ならんには例年前半期より輸出高多く後半期に至らば一層增加を見るべく一月より十二月迄の通計に於て昨年に比し二三割方の輸出增加は必然にして唯數量の上に於てのみならず價格に於ても昨年は實に稀有の安直に低落したる後なれば假令銀價益す騰貴する事あるも横濱の生絲相場昨年に比し騰貴するは勿論なるべく數量と價格と幷び進むものとすれば其增額は少小ならざるべし第二の重要品たる

絹物　は如何と云ふに此一兩年非常の勢を以て進みつゝありしに昨年は矢張り米國恐慌の爲めに進路を沮遏せられ羽二重類の如きは一昨年より輸出數量を減ずるに至りたれど他に原因あるにあらざれば我織物業の進歩と共に一段の增加を見る事確乎たるのみならず今正に開會中なる米國々會に於ける

海關稅減　の方針は既に一定せるが如く絹物も亦一割方の減稅を見るならんと云へば愈よ減稅さるゝに至らば是迄五割乃至六割方の重稅に苦められし我絹物は益す發達を見るに至るべし云々

横濱貿易新聞　生絲の前途果して如何、舊臘二十七八日頃には米國向きの注文達し甲九十番、百九

十八番、二番、三番等を始め各館とも手を揃へ信州器械を初めとして關西及び掛田絲を買煽りて市況は非常の活氣を呈し絲價も三四十弗、品に由り五十弗の高値に賣行きたるが其中にも約束の荷物は初荷として各館に引込みたるも其後は俄然一頓挫を來して爲替は益す下落するが爲め賣人は强張ると雖も買人は前値を稱ふるが爲め一日の出來高二三百個に過ぎずして大手合を見るに至らず今日迄殆んど白眼合の姿なるが斯く賣行きの少きに拘はらず在荷の額は信州絲の出荷は殆んど皆無なるが爲め關西及び掛田、奥仙等少しく入荷あるも上武州の坐繰絲ボツ〳〵出廻るは皆少額なるが爲め毎日の賣高と平均して何日も二萬五千位宛の堆積を爲し居る姿なる故此先き一朝賣行きある場合には忽ちに拂底を來すは眼前明かなる事實なるが扨外商の見込は如何と云ふに海外市場は他國の絲に比し日本絲の下落特に甚しきが故一朝機業家の需用心を起す場合には必ず日本絲に眼を着け是を引誘ふは勿論なる見込みあるのみならず外商の心中に於ても此以上下落を來すは尤も好まぬ事にして絲價の此邊に止まり居らん事は殊に希望する所ならんと雖も何樣恐るべきは內商の度胸と爲替の下落にして二三の人の意見を聞くも爲替はモツト安からんとの思惑あり旁々居留地商人は內商の擧動如何に注目して寧ろ目今の高きを買急らずして一旦落ち込まば手を出さんとの風情なれば內商人も新年以來永らくの持久に退屈したる風情もある可しと雖も僅に高の知れし前途の生絲に對し此處退屈に餘り賣崩すが如きは買ふ人にも賣る人にも將來の利益にあるまじと云ふ何樣外商の心中も內商の辛抱も今一耐への所肝腎なるものゝ如し

◎沖繩縣下の蠶況

本會報第十八號雜報欄內に本會員にて琉球新報社員たる宮井悅之輔氏の通信に係る沖繩縣下蠶兒早生の事を記載せるが今又信憑すべき報道に接したれば之を掲げんに全縣下の果して養蠶に適するや否に就ては數年試驗の上にあらざれば明言し難しと雖も氣候は四季を通じて溫暖にして桑樹の發生最も宜しく隨て蠶兒の如きも內地の最も早生種に比して二ヶ月以上も早く孵化するを以て製絲工女の足つなぎには甚だ便利にして已に本年の如きは去る一月七日に某縣官の宅にて蠶種の揚立を爲したるを始めとして引續き彼方此方にても發生せり而して全縣下にては天然の氣候溫暖なるが爲め火力を用ひずして速に成繭し其養法の不完全なるにも拘はらず繭質頗る佳眞にして內地の上等品にも匹敵すべき價値ありと或鑑定家が前記縣官家族の手に成る繭を一見して評したるが如き又同縣下の繭が河內地方にて三十圓內外に賣れ尙ほ續々と注文に接すれども品切の爲め之に應ずること能はざるが如き兎に角發揚の方法だに宜しきを得ば隨分面白き事業にして將來好望の產物となるならんと

◎夏蠶大草種の來歷

長野縣上伊那郡の產出に係る夏蠶大草種の來歷に關し全地南向蠶業組合に於て調査したるものを得たれば左に之を掲ぐ

一上伊那郡南向村大字大草故佐々木宇八なるものゝ選擇命名したるものなり

一右故宇八は寬政二年の頃在來の夏蠶種に春蠶を掛け合せ數年の辛苦を積みて選拔したるものにして即ち一百年前頃より行はれ天保年度より最も盛に擴張し當時販路は自國は勿論三丹州を始めとし遠江地方へ輸出せり

一現今當組合員等に於て製造するものは種々各自に合名を附すると雖も元種は必ず右大草種にして時勢と共に改良を加へ往時のものに比較せば數等歩を進せり

◎橋本重兵衛氏

本會報殆ど毎號の紙上に緊要なる事件を寄稿せらるゝ大日本蠶絲會贊成會員にして技藝委員たる横濱市福島町の橋本重兵衛氏は多年蠶絲の貿易に心を委ね海外の狀況に通曉せるが爲め曩に大藏省の囑托を受け蠶絲貿易上の事を逐一調査して進達せしかば其功勞に對し過般大藏大臣より左の如く賞賜されたり

神奈川縣武藏國横濱市福島町二番地　橋本重兵衛

當省主稅局に於て外國貿易に關する景況等諮問の際拮据黽勉能く其事項を明晰にして且必要の材料を具し調査上便利を得ること尠からず仍て金百圓下賜

◎生絲の英文目錄に付き米人の評

客年中横濱同伸會社に於て米國チカゴ市の世界大博覽會へ出品したる生絲の英文目錄を同社より彼國の機業家始め各關係者へ配布したることは本會報十六號の雜報欄内に掲載せしが該目錄に付き米國人の發刊に係る雜誌の評言を左に記載すべし

○日本生絲

此頃横濱より横濱有限責任同伸生絲會社米國代理店新井領一郎氏の店へ來着せられたる上野昭道氏は「各製絲家の出品代理者たる日本横濱有限責任同伸生絲會社出版開龍世界博覽會出品日本生絲目錄書」と稱する頗る美術的の冊子を齎し來れり此淡泊なる題號の中には活字圖書の精巧なるあり表紙の意匠と色合とは唯妙といふの外なく殊に製絲家の商標を一々寫眞石版にしたるものゝ如きは驚嘆すべきものたり發行者は同伸會社にして日本東京「東京築地活版製造所」の印刷に係れり

緒言には日本蠶業小歴史を載せ其記事は景行天皇の四十年大に桑樹を栽植したるに始まり紀元一九六年仲哀天皇の御宇蠶種始めて支那より輸入し爾後幾多の年間蠶業は　聖詔を以て養成されたることより遂に一八六〇年横濱港を開き外國貿易をなし始めて英人某芝屋某の店に來り甲州絲三百和斤を英一斤一歩銀五個替にて買收（時に銀三個は一弗に當れり）したるに叙及し結末に至り今を距る十四年前横濱に於て同伸會社の創立あり概して屈竟の製絲業者を以て組織し里昂及紐育（紐育支店は新井氏の擔任する所）に支店を設け其目的とする所は一般斯業の宿弊たる惡絲の輸出を可及的防遏するにありたることを記せり

其商標の圖書の斬新にして佳趣あることは亞細亞同胞國に於て圖書の技術の完全高尚の域に達せることを示すに足れり

該書の一部は同伸會社を代表せる上野昭道氏親しく我社へ寄贈せられたれば我輩は其慇懃を感謝せざるべからざるなり

右米國絹物雜誌（二十六年十月發兌）

○同伸生絲會社出品目錄

此頃同伸生絲會社の代表せるチカゴに於ける日本生絲出品目錄書の刊行あり卷の大部は同伸生絲會

社の代表せる各製絲家の商標を石版にて摺出せるものなり而して是等超絶奇致の圖書に添ふるに生絲の細大、産額、器械、博覽會褒賞等各製絲家に就ての價値ある事項を詳悉せるのみならず日本製絲業太古よりの周到なる沿革を敘述し其活字彩裝共に何れの地に對しても其技の信用を負ふへし若し其卓越奇効ある商標を習熟するときは米國絹業家に裨益するものあるべし其意匠佳にして優なるものあり我等は信用を厚うすべき這般の刊行に就て該社のために祝せざるべからざるなり

右米國絹物經濟雜誌（二十六年十月二十八日發兌）

◎蠶絲に關する會社の彙報

愛媛縣宇摩郡川之江村の川之江製絲會社は大日本蠶絲會員紀伊鄉篤氏外若干名が發起者と爲りて過る明治二十三年中に創設せるものにして爾來年を經る未だ久しからざるも社運隆昌を來し隨て工場の狹隘を告ぐるに至りたるが爲め客年八月中新築に起工し豫て上州富岡へ製絲の傳習として差遣したる七八名の工女も卒業して已に歸村し居れば之を使用し尚ほ從來の工女に員數を增加して事業に從はしむる筈にて其器械等も已に夫々準備整ひたりとぞ

又同縣宇和島町の南豫製絲會社にては去る一月十四日午後六時頃點燈の際ランプより失火し事務所、機械室、蒸殺室、生絲庫、繭庫其他構内の建物悉皆燒失し其損失高は或は三萬圓と云ひ或は十一萬圓を下らずとも云へり是が爲め數百の工女は其職を失ひ屋入口入所の門前は一時市を爲せりと其慘狀想ふべし

千葉縣佐倉町に於ける佐倉蠶業會社は客年新築工事の爲め多額の費用を要せしより其重なる株主薔薇

主堀田伯を始め七八名の人々相謀りて更に一倍餘の增株を爲すことゝなり尚ほ別に新株をも募集して一層業務を擴張し當業者間に十分の便益を與へんとするの計畫ある由同社は諸般の順序能く整ひ殊に工女の取扱の如きは最も嚴肅にして其員數は六十名に餘れるも就業中は靜寂として場内入なきかと怪まるゝばかり而して工女には寄宿を許し毎日終業後より九時頃迄は裁縫及習字等を教授するの方法も備はり居るとの事なり

奈良縣大和の南都製絲會社及岡山縣備中の高梁製絲會社は豫て農商務省へ創立の出願中なりしに此程夫々認可證を下附されたるを以て今や專ら設置の計畫中なる由

滋賀縣膳所町の膳所製絲會社は元來膳所藩士族授産の爲めに設立したるものなりしが其後故ありて解散せしに客臘中同縣長濱町の豪商下鄉傳平氏が之を讓受けて更に工場の增築を爲し本年の春蠶より事業を再興する筈にて其監理者は中根某なりと云ふ

三重縣飯高郡船江村に建設せんとする製絲工場は富田某外四名の合資事業しにて百口取りの蒸汽機械を据付ることに豫定し先づ五十口の機械を裝置し漸次事業の擴張するに從ひ增して豫定の百口に至るの目論見にして不日工事に着手する由其位置は松阪町の西部に方りて凡そ一町餘の地を卜せりと

和歌山縣の和歌山蠶桑會社は元來政府より下附ありたる士族授産金を以て創立したるものにして和歌山士族の外は是迄株券の賣買を爲さしめざりしが去る一月十四日株主總會を開きて定款を改正し役員の改撰を爲し自今株券は士族に限らず何人にも其賣買を許すことゝ改せり

◎會員歸京

客月中農商務省の命を帶びて蠶業講話の爲め茨城縣へ出張されし大日本蠶絲會幹事松永伍作氏又仝事件にて神奈川縣へ出張されし仝技藝委員本多岩次郎氏及宮城縣へ出張されし仝技藝委員芝山宗太郎氏は過般各歸京されたり

◎大日本蠶絲會員の加入

○通常會員

新潟	昆田重之	埼玉	浦部頁太郎	仝	木村豐太郎
仝	金井松五郎	仝	金井友吉	仝	飯島喜三郎
仝	逸見恒三郎	仝	長田實	仝	田島茂作
仝	勝本峯藏	仝	根岸直藏	仝	原四郎衛
仝	櫻井隼太郎	仝	長岡辰吉	仝	倉本平吉
仝	清水貞吉	仝	根岸角次郎	仝	横田丘一
仝	金丸武市	仝	卜部濕三郎	仝	齋藤正則
仝	小林重吉	仝日本蠶種貯藏株式會社			
仝	猪熊增太郎	福島	大橋濟	群馬	田中宇三郎
山形	村上仁太郎	愛媛	井上清次郎	岩手	近藤傳八郎

◎綠綬褒章下賜

我大日本蠶絲會員にして技藝委員たる木村九藏氏は實業に精勵せし廉を以て此程賞勵局に於て綠綬褒章を下賜されたり

埼玉縣武藏國兒玉郡青柳村大字新宿　木村九藏

夙に忠な農業に勵まし力を養蠶に竭くし刻苦多年遂に一派の温暖育法を案出し蚕青器及桑籍を新造し桑苗を挿栽して同業者に頒與し其間を簡潔して蠶種を精製し名聲鵲其遠近來て教を乞ふもの多し是に於て蠶進社を創立し推されて社長と爲り廣く生徒に傳習し展覽品評會共進會を開て私費を投下優等者を賞し其後海外に渡航して蠶業を觀察し歸朝の後蠶種貯藏庫を設立し以て其得る所を實施し敎ゑさして敢て仝國する節洵に實業に精勵し衆民の模範とす仍て明治十四年十二月七日勅定の綠綬褒章を賜ひ其善行を表彰す

●特別廣告三件

第三回大集會

本年春季開設すべき目論見に候處幹事長岡綠幹事高橋信貞の二氏には農商務省の命を帶びて過般沖繩縣へ出張四月初旬ならでは歸京の運びに至らず又幹事小畑岩次郎氏には難去用件にて目下歸省中夫是の都合よりして已を得ず來る四月七日（第一土曜）東京市赤阪區溜池町一番地三會々堂にて開設するとせり尤開會の順序及當日の演說者等は尙ほ次號の紙上に詳細報道すべし

會費の儀昨年以來御催促申上候得共今以て御拂込不相成向も有之然るに本會規則第九章第廿八條の決算報告期相迫り差支不尠候間事情御汲察の上何卒**至急御送金**あらん事を希望す

二十七年度會費本月より領收すべきに付き成るべく速に御納付ありたし

廣告

大賣捌所

農務局西ヶ原蠶業試驗場講師
高橋信貞氏講述野崎岩次郎筆記
前正
再版

生絲繭蠶種審査法

正價金廿五錢郵券代用一割增外ニ郵送
代金四錢

本書は**高橋講師**が多年經驗せられし審査上緊要の條件を詳記し併て之が說明及注意を學理實地の經驗に徵し實物を要する箇所は精圖を挿入し之が使用法を明示し其精密なるは全國博覽會若くは聯合共進會の審査に適用し其簡易なるは一市郡町村の共進會品評會に應用し從來區々の審査法を改良するの方針を以て講述せられたる良書なれば近來蠶業の進步と共に共進會品評會等の流行に連れ當局者の坐右欠くべからざる一讀千金に値する無類の良書也初版既に賣切に付き今や再版發賣す

東京市本郷四丁目　**内田長藏**

東京市麻布西町　**日本蠶業雜誌社**

東京市本郷弓町二丁目
御法川蠶業器械販賣所　**蠶事新報部**

東京市南傳馬町二丁目　有隣堂　**穴山篤太郎**

東京市駿河臺鈴木町　敬文堂　**篠佐吉**

横濱市南仲通　**横濱貿易新聞社**

仝　仝　**南中舍**